

予約
受付中

2021年8月30日発売予定

重症心身障害児者ファーストに
“今何をすべきか”
セラピストの指針となる1冊

実践に基づく 重症心身 障害児者の 理学療法ハンドブック

編著 金子断行 花井丈夫
平井孝明 染谷淳司



- 01 概論
 - 1-01 重症心身障害児者の理学療法の背景となる歴史と概念の変遷
 - 1-02 理学療法評価のいとぐち
- 02 啓論
 - 2-01 ヒトの成り立ちから考える理学療法
 - 2-02 呼吸機能と嚥下機能の発達とアプローチ
 - 2-03 ポスチュアリングと姿勢環境支援
 - 2-04 側彎の対策とアプローチ
 - 2-05 非対称変形に対する理学療法
- 03 応用編
 - 3-01 身体に不自由のあるこどもたちの支援を通して発達を考える
 - 3-02 在宅での理学療法
 - 3-03 福祉制度の変革と福祉事業所における理学療法士の役割
 - 3-04 放課後等デイサービスでの理学療法士の役割
 - 3-05 障害者支援施設等での生活介護における理学療法士
 - 3-06 学生教育における重症心身障害の理学療法
 - 3-07 チーム支援
 - 3-08 重力とあそび～余暇・スポーツ活動支援～
 - 3-09 家族支援・きょうだい支援・親なきあと等についての配慮

豊富な治療エピソードをもつ
経験 20年以上の理学療法士による執筆陣

執筆陣一覧 (敬称略、順不同)

編集・執筆 金子断行 花井丈夫 平井孝明 染谷淳司

執筆 榎勢道彦 海瀬一典 奥田憲一 高塩純一
齋藤大地 辻清張 要武志 中徹
宮本久志 押木利英子

実践に基づく
重症心身障害児者の理学療法ハンドブック
発行元:株式会社ともあ/B5判/本文2色/250P
ISBN 978-4-910393-51-3

ご予約・
お申し込みは
こちら
tomoa-books.jp



予約受付中

定価 4,950円
(本体4,500円+税10%)

お申し込み・
お問い合わせ

株式会社ともあ

〒461-0004 愛知県名古屋市中区葵1-26-12 IKKO新栄ビル 6階
TEL:052-325-6618 FAX:050-3606-5916 e-mail:publisher@tomoa.co.jp



ISBN978-4-910393-35-3

C3347 ¥2500E

小児リハビリ
テーション

●定期刊行誌「小児リハビリテーション」vol.10 2021年7月15日発行 (ISBN978-4-910393-35-3) ISSN 2433-9822
●発行:株式会社ともあ 〒461-0004 愛知県名古屋市中区葵1-26-12 IKKO新栄ビル6階 TEL052-325-6618 FAX050-3606-5916

定価 2,750円
(本体2,500円+税10%)

みんなで「一緒に」子育てをするという考え方。

ここから学ぶ!

小児 リハビリ テーション

2021

7

vol.10

株式会社ともあ

通巻特集

第3弾 はいせつ の 発達

生活場面の活動の発達

「はいせつ」の
生活場面の発達をみる

排泄のメカニズム

発達の捉え方

保育現場

排便障害

発達障害

困りごととその工夫

幼児期・学齢期

症例報告

就学前から早期介入した注意欠如・
多動症を併存する発達性ディスレクシア児
一例の読字の流暢性と正確性の改善過程

連載

チームで子どもたちを見る①

姿勢保持と私①

TOPICS

学校介助員を通年雇用に

表紙～こどもと共に～



2. 保育の現場における子どもの はいせつの発達の捉え方

豊橋創造大学短期大学部 幼児教育・保育科 客員教授
社会福祉法人 明照保育園 幼保連携型こども園 明照保育園 主幹保育教諭
中島 美奈子

はじめに

①保育現場における子どもの成長

0～5歳児の元気な「おはようございます！」やあどけない笑顔、あるいは母親と離れる不安からの泣き声で毎日の園生活はスタートする。子どもたちは母親、父親、時には祖父母と手をつないだり抱っこされたりして、毎朝保育者のところへ登園してくる。私たち保育者は子どもたちを笑顔で迎え、保護者にも「ご苦労様、行ってらっしゃい」などとあいさつを交わし見送る。保護者の就労状況や家族構成などにより、早朝や夕方の延長保育を含めると子どもたちの園で過ごす時間は一律ではない。保育者は子ども一人ひとりの1日の健康状態や成長などに

写真1 保育者による保育カリキュラムマネジメント



ついて口頭やメール、連絡帳で保護者とのやりとりを丁寧に行っていく。

「今日はおむつを1度も汚さずに過ごせたね」「おしっこが出たことがわかると、おむつを自分のカバンから出して(保育者に換えてもらおうと)持ってきたんだよ。かわかった～」などと、迎えに来た保護者に子どもの楽しいエピソードを話すと、疲れた様子だった保護者も顔をほころばせて、嬉しそうに親子で見つめ合う姿が見られる。保育者にとっても親子の架け橋となれる、うれしい瞬間である。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領「第1章総則」¹⁾の冒頭に、保育の現場における乳幼児期の教育及び保育についてこのように書かれている。

「乳幼児期の教育及び保育は、子どもの健全な心身の発達を図りつつ生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、(中略)その特性及び保護者や地域の実態を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とし、家庭や地域での生活を含めた園児の生活全体が豊かなものとなるように努めなければならない。」

保育の現場とひと口にいても、現在は地域や家庭のさまざまな状況により、子どもが保育生活を送る場所は多岐に分

かれている。主だったものとして保育所、幼稚園、認定こども園があげられるが、ここでは私自身の所属する幼保連携型認定こども園での保育実践を通して述べていく。

園での保育は、保育者チームによる子どもの育ちへの直接的な保育とともに、食育等による健康支援、衛生面や安全面、災害への備えといった環境等への配慮、さらには園児及び地域の子育て家庭への保護者支援に関して、長期的な視野に立って全体的に計画および実践がなされる。そして地域や保護者の実情や、目の前の子どもの実態から評価、改善が繰り返されていく(写真1)。

前述の教育・保育要領では、それぞれの子どもの発達過程における保育に関す

るねらい及び内容に関して、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5つの領域と、小学校への接続に向けて「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」(①健康な心と体、②自立心、③協同性、④道徳性・規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり、⑥思考力の芽生え、⑦自然との関わり・生命尊重、⑧数量・図形、文字等への関心・感覚、⑨言葉による伝え合い、⑩豊かな感性と表現)とが、育ちの縦軸と横軸として述べられている。保育者に見守られながら友達と日々刺激を受け合って、安全で衛生的な保育環境のなかで気持ちよく過ごすことで、0～5歳児の子どもたちの日々の発育や発達は大変目覚ましい。

子どもたちの日々の様子

靴を履いてお散歩へ♪



いもほり



友達と関わって遊びを楽しむ



全力を出す瞬間



友達との表現



みんなでツッキング!



②子どもの発達における
はいせつの自立



子どもの発育や発達は常に連続的で、それぞれの発達がつながり合って全体の成長がなされていくことを、どの子を見ても実感する。

今回のテーマの子どものはいせつの発達に関しても、他の成長をきっかけにははいせつの自立のステップが進んだり、はいせつの自立が一步進んだことで他の成長にも影響を及ぼしたりしていることが保育現場では日常的であり、保育を実践する際の重要な視点となっている。

園での保育においては、食事・睡眠・清潔・衣服の着脱などとともに基本的な生活習慣のひとつであるはいせつが、おおよそ3歳児くらいまでに確立されるだけの成長がはかられるということで、1人ひとりのはいせつにおける発達がその子どもの全体の成長のなかでなされていけるような援助を大切にしている。

ここで、子どもたちとの生活からはいせつを通して感じることをいくつか挙げる。はいせつそのものは他の基本的な生活習慣と同様、心身の健康や疾患とも密接に関連している。他の生活習慣と異なる部分としては、その日の体調や個人の持つ体質によって、ある意味時と場所を選ばず必要な行為となることである。朝、登園してすぐに便意をもよおす子もいれば、昼の食事をしている最中に行きたがる場合もある。そのような個々の生体リズムを持ち合わせたまま、いずれは例えば学校に上がれば、授業と授業の間に行くような社会的な制約に自己をうまく調整させていく必要が求められる。

さらにははいせつという行為が他の基本的な生活習慣と大きく異なるところは、いずれは「個室での行為」となることである。家族や友達と一緒に楽しむ機会の多い食事や、時にはともに安らぐ眠り、活動の区切りや場所を移動する際に、他児や家族と着替えたり手や体全体を清潔にする経験もするであろう。しかしはいせつに関しては、乳幼児期にされる世話を経ていずれは個人の行為として行うことになる。その意味でも、乳幼児期におけるはいせつの自立にむけての、大人の直接的な手助けや園での友達との生活経験は、重要な役割を持つといえる。

はいせつを行う環境は、家庭の外では、便器も和式、洋式、立ち便器等さまざま、男女の別もあったりして使い分けられることが求められ、園や学校、施設や公園などの公衆トイレに、すべての子どもがすんなりと馴染めるわけではない。子どもたちの中には、見た目や匂い、閉鎖的な空間などに情緒不安となって、散歩に出かけた先の公園などでのトイレの使用を嫌がる姿も見られる。

保育者はそんな子どもに寄り添って、不安を和らげながら、徐々に抵抗をなくせるようじっくりと関わっていく。乳幼児期のはいせつに関する養護的ケアは、いずれ子ども自身が自ら実践し、自分の健康と社会生活との調整を図り、健康的な社会生活を送ろうという姿勢を持つようになるという、真のはいせつ自立につながることを願いながら、保育者は長期的な視野に立って日々子どもと接している。

はいせつにおける保育のポイント

さまざまな世話を受けることを通してはいせつの感覚が芽生えていく段階 おおよそ0歳児

1. この時期の保育の基本的事項
(教育・保育要領¹⁾より)

視覚、聴覚などの感覚や、座る、はう、歩くなどの運動機能が著しく発達し、特定の大人との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆が形成されるといった特徴がある。これらの発達の特徴を踏まえて、乳児期の園児の保育は、愛情豊かに、応答的に行われることが特に必要である。



2. はいせつに関する子どもの成長

- ◇ 排尿、排便しておむつが汚れたときに泣いたり、表情や動作で表す。
- ◇ おむつがきれいになったことで、気持ちよさを感じる。
- ◇ おむつをきれいにしてくれた人との関わりを、心地よく感じる。

3. 保育者の関わりと配慮

- ◇ 一人ひとりの体調やはいせつのリズムを把握したうえで、泣いたり表情などの様子を受けて「おしっこがでたのかな」などと応答し、受け止めてもらえる安心感につなげる。
- ◇ 「おむつ換えようね」などと声をかけ、交換しながら笑いかけたりスキンシップを取るなどの関わりが楽しめるようにして、交換後には「さっぱりしたね」「気持ち良くなったね」など、きれいになった心地よさを感じられるようにする。
- ◇ 一人ひとりに応じてこまめにおむつへの対応をするとともに、子どもが生活の流れをイメージでき、活動の区切りが感じられるよう、食べる、寝る、遊ぶなどの活動の節目に行く。
- ◇ 衛生面に配慮するとともに、子どもの気持ちの変化に十分応答できるよう、おむつ交換の場所、準備物、動線を考慮して環境構成しておく。
- ◇ 複数の保育者がゆるやかな担当制の中で、チェック表や声掛けを通して、一人ひとりの子どものはいせつも含めた全体の状況について共有する。



はいせつという仕組みを自分の体のリズムを通して意識できる段階 **おおよそ1～2歳児**

1. この時期の保育の基本的事項
(教育・保育要領¹⁾より)

歩き始めから、歩く、走る、跳ぶなどへと、基本的な運動機能が次第に発達し、はいせつの自立のための身体的機能も整うようになる。つまむ、めくるなどの指先の機能も発達し、食事、衣類の着脱なども、保育教諭等の援助の下で自分で行うようになる。発声も明瞭になり、語彙も増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。このように自分でできることが増えてくる時期であることから、保育教諭等は、園児の生活の安定を図りながら、自分でしようとする気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的に関わる必要がある。



2. はいせつに関する子どもの成長

- ◇ 排尿、排便した後に、動作や言葉で知らせるようになる。
- ◇ 「シー」などはいせつの前に言葉で知らせるようになる。
- ◇ オマルや便器に慣れ、保育者の見守る中でオマルや便器ではいせつしようとする。



3. はいせつの自立に向かっている子どものエピソード

- ◇ 遊んでいる際に保育者の肩をたたき、おむつをたたいて鼻をつまむ仕草をすることがある。トイレに連れていっても出ていなかったが、便器に座ることが嬉しかった様子。
- ◇ 便器に座った時におちんちんに集中している姿から、排尿しようとして意識できている。
- ◇ 初めてトイレではいせつ、排尿ができた時は、おしっこを触ろうとしたり、便をじっと覗き込んだり、びっくりして泣いてしまう子もいる。
- ◇ 下腹部をふくらませたり力んでへこませたりすることを交互にしている。
- ◇ 他児のはいせつの様子を不思議そうに見ている姿がある。

- ◇ 褒めてもらいたくてか、出ていなくても「でたよ」と言う。
- ◇ 活動の合間に行く際には行かず、活動の途中で中断して行くなど、タイミングをつかむことが難しい様子もある。
- ◇ 便秘がひどく泣き叫びながら排便する。
- ◇ 立ち小便器にまたがり、座るような体勢で排尿する子がいる。その状態で排便してしまうこともある。
- ◇ おちんちんがくっついていたり、よそ見をしたりすることで便器から尿が飛び散ることがある。



4. はいせつ自立に向けての保育者の関わりと援助

- ◇子どもがもぞもぞしたり、いきんだりした場合は、タイミング良く「おしっこかな」「うんちがでたのかな」と声をかけ、おむつ交換をして気持ち良くなることを知らせる。
- ◇おむつが汚れて、身振り、手振りで知らせた際は「おしっこでたのかな」「よく教えてくれたね」などと十分に受け止める。
- ◇おもらししてしまった際は「気持ち悪かったね」「今度は教えてね」などの声をかけ、次はトイレではいせつできるようにつなげる。
- ◇子どもが立ったままおむつパンツを交換する場合は、保育者は子どもと対面し、子どもに介助の過程を言葉をかけて伝えながら交換する。(その際は、子どもは保育者につかまって安定させ、徐々に立って履く感覚を覚えられるようにする)
- ◇オマルや便器ではいせつした際は、子どものその瞬間の気持ち良さやすっきり感に共感する。
- ◇トイレに子どもの興味のある物を置くなどし、子どもがリラックスでき、親しみが持てる雰囲気作りをする。
- ◇着脱の際に子どもが腰かけられるイスやマットなどの準備をするなど、子どもが着脱しやすい環境を整えることで、徐々に子どもたちがズボンなどの着脱に参加できるように援助する。
- ◇蛇口に手が届くよう踏み台などを置き、子どもが使いやすいように手洗い場の環境を整える。
- ◇個々のはいせつの間隔を把握し一人ひとりのタイミングに応じてオマルやトイレに誘うとともに、子どもが生活の流れをイメージでき、次の活動への見通しが持てるように戸外活動前、食事前、午睡前後などの活動の節目に行う。
- ◇トイレを嫌がる気持ちも受け止め、トイレを無理強いしない。
- ◇おむつが外れる時期は個々の子どもの育ちや、生活の姿によって個人差が大きいので、保護者と連携しながらおむつからパンツへ移行できるように、無理なく進めていく。



社会生活の中で自分のはいせつのリズムをコントロールしていく段階 おおよそ3～5歳児

1. この時期の保育の基本的事項 (教育・保育要領¹⁾より)

運動機能の発達により、基本的な動作が一通りできるようになるとともに、基本的な生活習慣もほぼ自立できるようになる。理解する語彙数が急激に増加し、知的興味や関心も高まってくる。仲間と遊び、仲間の中の一人という自覚が生じ、集団的な遊びや協同的な活動も見られるようになる。これらの発達の特徴を踏まえて、この時期の教育及び保育においては、個の成長と集団としての活動の充実が図られるようにしなければならない。



2. はいせつに関する子どもの成長

- ◇尿意、便意を感じたらトイレに行く。
- ◇汚れないように、気をつけてはいせつができる。
- ◇はいせつ後の始末などは、自分でできるようになる。
- ◇トイレの使い方や、ペーパーの使い方、はいせつ後の始末を上手にする。
- ◇活動の見通しを持ってはいせつすることができる。



3. はいせつの自立に向けての 保育者の関わりと援助

- ◇立ち小便器を使えるように援助する(立つ位置、お腹を突き出すようにして便器に近づける、済んだ後に尿を切るなどを伝える)。
- ◇女兒は尿・便共に前から後ろに向かって拭くように伝え、徐々に自分でできるようにする。
- ◇トイレットペーパーの使い方や長さ、トイレの水の流し方、排尿、排便後に手を洗い拭くなどの一連の流れを、一つひとつ丁寧に伝え、子ども自身ができるように援助する。
- ◇徐々に生活の流れや見通しを持って、自分から活動の前にはいせつを済ます習慣が身につくように声かけをする。
- ◇活動の途中でも尿意、便意を感じたら「トイレに行ってきます」と保育者に伝えられるように促す。
- ◇体調がすぐれなかったり、タイミングを逃してしまったりして失敗したときは、速やかに個別の場所に連れていき清潔にし、着替えができれば集団活動にスムーズに戻れるような配慮をする。



保育の現場における子どもの
はいせつの発達の捉え方



家庭でのはいせつ自立と 子育て支援

保育の現場では、集団生活の中で一人ひとりの健康状態やリズムを把握し、早期に気づき対応していくことの大切さを保護者と共有し、家庭での子育て支援につなげる。

保護者同士の会話からは、ある時期トイレトレーニングという言葉がよく聞かれる。母親たちはおむつが外れて自分からトイレに行くようになることをともかくのゴールにして、さまざまな工夫と努力で一喜一憂しながら日々育児に奮闘している。

はいせつは、動物すべてが持つ生理的な現象であるものの、人間の赤ちゃんは、感覚的な衝動により泣いたりすることで近くの大人が気づき、大人からの世話を受けることで初めて達成される。そのような日々の温かい関わりを通した繰り返しを経て、次第にはいせつという行為が自分の体の仕組みとして自覚されていく。

はいせつをうまくできたり、時にはできなかつたりと、その都度気持ちの良さや悪さは子どもの経験として蓄積されていく。乳幼児に寄り添う母親は、子どもの体調や状況にも細かな注意が必要とされるが、昼夜関係なく訪れる体調や機嫌に伴うはいせつのリズムは、そこに気づき対応する母親にとって時にはかなりしんどいものとなる。

そのうえ、核家族の占める割合が高くなったことで、ごく身近に援助してくれる人や相談相手がおらず、さまざまな雑誌やSNSなどの情報に頼らざるを得ない状況のなか、育児全般に不安を抱えながら過ごす母親は少なくない。母親の就業率の上昇に伴い1歳児からの就園率も高いこともあって、今や母親にとって最も身近な相談相手の一人が園の保育者であるという現象が一般的となっている。子どもの保育・教育機関である園においても、保護者への支援は欠かすことのできない重要な機能となっている。

園では、子育て家庭支援の一環として毎月のうちの1週間「早起き早寝カレンダー」を保護者に渡し、親または親子で生活リズムのチェックを行い、感想を記入して園に返してもらうことをお願いしている。

そこにつづられている保護者のはいせつに関する思いや悩みを抽出してみた。

子育て家庭支援

1週間「早起き早寝カレンダー」

| 7:00-7:30 | 7:30-8:00 | 8:00-8:30 | 8:30-9:00 | 9:00-9:30 | 9:30-10:00 | 10:00-10:30 | 10:30-11:00 | 11:00-11:30 | 11:30-12:00 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 起床 | | | | | | | | | |
| 朝食 | | | | | | | | | |
| おむつ交換 | | | | | | | | | |
| 排便 | | | | | | | | | |
| お風呂 | | | | | | | | | |
| 就寝 | | | | | | | | | |

今年1年の子育ての悩みを聞かせて下さい(※)

おしえてください～トイレのこと～

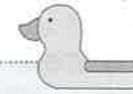
さあ、カレンダーチェックもして家族みんなで健康に!

今年1年の子育ての悩みを聞かせて下さい(※)

おしえてください～トイレのこと～

保護者の の 想 い

1歳児



おしっこの際は自分で「トイレ」や「しっしー(おしっこ)」と教えてくれる時もあるので、トイレに連れて行けますが、うんちの時は、うんちが出た後に「うんち!」と教えてくれるので、トイレに連れて行くタイミングが分からなくて、困っています。

家では「トイレに行く?」と聞くと「行くー!」と言い「でー!」と言っても出ていないパターンがほとんどだったのが、おしっこをした後に、おむつでも気になるのか「ぬれたー、つめたい」など自分から言ってくれるようになりました!

気になるのは保育園でうんちをしないことです。朝と帰ってきたらすくします。我慢しているのかは分かりませんが、家だと出やすいみたいです。決まってテーブルの下でうんちをしているので「トイレ行く? 行こうか?」と声をかけても「行かない!」と言われるのがお決まりです。気長に声をかけていきます。

お兄ちゃんがトイレに行くのをいつも見ているので、自然とトイレでできるようになりました。トイレに行けたらシールを貼るようにして、楽しみながらすすめています。

おかげさまでパンツをはけた喜びを自分で分かるようになってきています。トイレのタイミングはまだ難しいようですが、気持ち悪い感覚はあるようなので、漏らしてしまっても教えてくれた時は家族みんなで褒めちぎるようにしています。

保育園では、決まった時間にトイレに行っているからできるのか、家では、全くできず……。[おしっこ出る!][うんち出る!]とはまだ言わないので、やはり、家でも決まった時間にトイレに連れて行った方がいいですか?

実質トイレは、まだ始められていないのが現状です。言葉によっては、こちらの意図を理解できていないようですが、言葉やしぐさでのやり取りが不十分な状態でどのようにトイレを始めたらいいのか、分かりません。以前は、排便後に「うーんした?」と聞くと、「うーん!」と返答していた頃もありましたが、最近では、全く反応してくれません。(泣)

自宅ではまだ一度もトイレでのはいせつが成功していません(お風呂でいつも出しています)。他の子と比べたくなってしまいますが、焦らず子どものペースで進めています。トイレに行くことが楽しくなるよう、アンパンマンの便座にしたり、「トイレ行く?」と聞いて、本人の意思に添うようにしています。何かいい方法があれば知りたいです。

「ママおしっこー」と言ってくれるのでトイレに行くと、ただ座っているだけ。出ていないのに、「おしっこ出たー!」と言うので、「すごいねー! できたねー!」と言っていますが、このままでいいの分かりません(汗)。トイレトレーニングのやり方がイマイチ分からず、とりあえずトイレに行くだけになっています。お友達がパンツをはいていると聞き、少し焦りました。人それぞれと思い自分に言い聞かせますが、どのように進めているの分かりません。

2歳児



日中はほぼ自ら行くことができるようになってきました。踏み台を自分でセットして用を足した後、後始末をして手を洗うところまで一人でできるようになりました。時々一緒について行くと、拭き方があまい時があるので声はかけるようにしています。あとはズボンにしっかりシャツがしまえるよう練習中です。

うんちが、どうしてもトイレでできず悩んでいます。トイレに誘っても絶対に嫌だと言われ、部屋のすみっこでおむつの中にしてしまいます。どうしたらトイレでできるようになりますか?

日中はパンツのみで過ごせていますが、寝る時や出掛ける時などはどうしても心配になってしまい、おむつをはかせてしまいます。完全にパンツになるにはどうしたらいいのだろう……と心配になります。トイレに連れて行ったり、「おしっこ出る?」と何回も聞いていますが、自分で気づき、トイレへ行けるようになってほしいです。うんちが一度もトイレでできません。(汗)

保育の現場における子どものはいせつの発達の捉え方

2歳児

最近、少しずつ、「おしっこ出るー!!」と出るギリギリで言ってくれることが増えました。親が声をかけても、「行かない!」とか、行っても「出ない!」とすぐにおりてしまうこともあり、その後「出ちゃった……」と言ってくることもあるので、なかなか難しいです。また、排便はおむつでしたいらしく、トイレでは嫌がるので、トイレでできるようになるにはどうすればいいか悩んでいます。何か良い方法があれば知りたいです。

寒くなってから、なかなかトイレを覚えてくれなかつたり、誘っても嫌がるようになってしまいました。少しでもトイレが楽しくなるように、壁に好きなキャラクターがトイレに座っている絵を飾ったり、余裕があれば先にぬいぐるみを実際にトイレに座らせておいて、「〇〇ちゃんが待ってるよー」と誘ったりしています。

うんちをトイレでするのを嫌がります。自分でおむつにはきかえて、うんちしています。難しい……。 (汗)

気分によってトイレを断固拒否 (特に朝イチ) することがあります。「うちのトイレは嫌」だそうです。具体的になんか嫌なのか分からず……。 「保育園のトイレは好き」だそうです。(笑)

3歳児

うちは3歳になるまでトレーニングはしていません。下の子どももストレスになると聞いたので、早くは始めませんでした。3歳だと座ることも嫌がらず、理解もできるので遅く始めても問題ないと思います。全く失敗しないで、というのは難しいですが、保育園に行きだしたこともトイレが進んだ原因の1つです。遅く始めるメリットはもう1つ、補助便座がいらないことです。オマルや便座、最初からイスなど何もなくとも自分で座れるようになったので、他の家の人や施設なども大人が手伝わなくても自分で座ってできるようになりました。毎回呼ばれるのは大変なので、その点はとても助かっています。



4歳児

一緒にいないと泣いてしまう子だったので、小さいころからよく一緒にトイレに行っていました!! 早起きカレンダーの効果で、「朝うんち」をよくするようになりました! ありがたいです! ありがとうございます!!

5歳児

いまだに、おもらしをしてしまうことが悩みです。どうしてトイレでしないのか……。トイレでするけれども、夜お風呂の時に脱ぐと必ずもらしています。毎日必ず。声を掛けてもなかなか行きたがりません。本当にしたい時は自分から行きますが、入学してからのことが不安でなりません。自分で気付く時が来るとは思いますが、「先生トイレ行きたい!!」が今でも言えていないのではないかと心配です。うんちも保育園ではガマンしているようなので、これも入学後が心配です。うんち後のおしりは自分で拭けるようになりました。「1回やってごらん」から始めて、「3回やったらママが仕上げね」が長く続き、最近では1人できれいに拭けるようになってきました。小学生になるんだ、という気持ちが大きくなってきたので、少しずつですが、自分でなんとかしないといけないと危機感を持つようになったのかもしれません。おねしょも減ってきましたが、いまだにします。どうしたらよいか分かりません。怒れてきます。(泣)

おむつからパンツになり、自分でトイレに行けるようにとトイレトレーニングに精を出しながら、わが子の発達の遅れや疾患などへの疑いを持って不安や焦りを抱え、ついつい不用意な言葉を子どもに発してしまう母の姿が浮かんでくる。

自立に向かっていく子どもにとって、自分自身の味わう気持ちよさあるいは悪さと同時にかけられる大人からの言葉や関わりは、心と体双方が相まって達成されていく自己の確立にも大きく関わる。生活習慣の自立は、本来、子どもにとって大きな自信となるもので、自己肯定感の高まりとともに自分から意欲的な生活が送れるようなステップであり、反対にうまく進まないと、自己の性格形成にも影響することが考えられる。

子育てに一生懸命なあまり、ついエスカレートしてしまう母親の言動を、「まあまあ……」と一息つかせてくれるような祖父母や近所の人などがそこにいれば、おむつひとつのことで、最悪な事態にはおそらならないだろう。このカレンダーにつぶやく保護者は、それだけでも自己を振り返り、冷静になる時間が持てていると推察できる。ここに思いを出さない母の内面を、無関心だからか、

逆に思いつめすぎているからかなどと、日々の親子の様子からも感じ取って、思いが出せない母親と子どもの状況こそ、支援が必要な場合がある。

保育者は、子育て支援の立場から上記のような母親からのつぶやきや悩み、相談を母親自身の努力として温かく受け止め、信頼関係を基盤に、子どもの成長を共にはぐくめるパートナーとしての関わりを大切にしていく。

それにより、保護者自身が子どもの成長を喜び、はいせつを含めた子育ての営みに関して、保護者が自ら実践していこうとする意欲がはぐくめることを、保育者の行う子育て支援の基本的姿勢と考えている。



【園児デイリープログラム (一日の保育の流れ)】

| 乳児 (0~2歳児) の様子 | | 時刻 | 幼児 (3~5歳児) の様子 | |
|-------------------------|--|-----------|-------------------------|---|
| | | ~ | | |
| 絵画 | ・塗る ・ぬいこ、指輪を付ける ・指輪の絵を塗る ・川・手洗い | 8:00 ~ | 絵画 | ・塗る ・ぬいこ、指輪を付ける ・かばんやきつねを塗る ・室内や戸外で好きなおむつを塗る |
| あそび 排泄 手洗い | ・好きなおむつを塗る ・保護者と一緒におむつを塗る ・ぬいこ、手洗いを塗る | 8:45 | あそび | ・室内や戸外で好きなおむつを塗る |
| おやつ | ・ぬいこ、手洗いを塗る | | あそび 片づけ 排泄 手洗い | ・室内や戸外で好きなおむつを塗る ・ぬいこ、手洗いを塗る |
| あそび 片づけ 排泄 手洗い | ・ぬいこ、手洗いを塗る ・保護者と一緒におむつを塗る ・ぬいこ、手洗いを塗る | 9:30 | | ・塗る ・ぬいこ、手洗いを塗る |
| おやつ | ・ぬいこ、手洗いを塗る | 11:00 | | ・塗る ・ぬいこ、手洗いを塗る |
| おやつ | ・ぬいこ、手洗いを塗る | 11:30 | おやつ | ・ぬいこ、手洗いを塗る |
| おやつ | ・ぬいこ、手洗いを塗る | 1:00 | あそび | ・塗る ・ぬいこ、手洗いを塗る |
| あそび 排泄 手洗い | ・ぬいこ、手洗いを塗る | 2:45 | | ・塗る ・ぬいこ、手洗いを塗る |
| あそび 排泄 手洗い | ・ぬいこ、手洗いを塗る | 4:00 | 絵画 | ・塗る ・ぬいこ、手洗いを塗る |
| あそび 排泄 手洗い | ・ぬいこ、手洗いを塗る | 4:30 | 延長保育 | ・塗る ・ぬいこ、手洗いを塗る |
| | | 7:00 | | |